

賢明なる濱松市民 諸君に訴ふ

十八日夜の日本樂器爭議團本部に於ける我々相愛會々員と爭議團員との間に勃發した亂闘に就いては多くの日刊新聞が事實の真相を傳へず虚報或は誤報を爲したため自然市民諸君の大多數は本會の立場を誤解して居らるること、思ひます故に本會は茲に右事實の真相を發表すると同時に本會の主義精神を述べて些か御考慮を煩うたいと存じます。

日本樂器爭議團員中には立花春吉と内地名を名乗る鮮人の一人が參加して居たのであります、この一事は些細なやうではあります、が常に本會が歩んで來た不良鮮人の善良化即ち窃盜、擄り或は家賃米代其他の不拂者に對して徹底的的糾弾を行ひ内地人諸君に愛して戴かふと云ふ本會の精神から見ますと甚だ遺憾に考へましたから十七日晝夜の二回に亘つて立花春吉を爭議團より脱退方を求めんとて爭議團を訪れたところ「幹部も責任者も居らぬ」とて全然拒絶したのであります、が我々は前二度の門前拂らひにもこりす更に三度目の面會を求めやうとて鴨江觀音の運動會場へ行き幹部らしい一團員に爭議團長の在否を尋ねたところ「本部に居る」との話してありましたがその團員と一緒に自働車で爭議團本部へ赴いたのであります、然るに右團員は本部に着くと直ちに二階へあがつたさき姿を見せないいで途方に暮れていた折柄運動會場を引揚げて來た數百名の一團中本澤爭議團長（後から判つた）が傲慢な態度で「貴様は何者だ」と詰問しました、それでこの人が「爭議團の責任者だナ」と直観した我々は初めからそうではありましたが一層緊張した紳士的態度で訪問の意を傳へてひたすら諒解を得ることに努めたのであります。

それにも拘らず本澤爭議團長は「朝鮮人のくせに、意地を張つて行け」と暴言を吐きながら東京總本部副會長朴春琴氏の胸倉に手をかけて追出せうとしかけました、そこで一行中の一人が「副會長に手を出すとは何事だ」と怒つて本澤爭議團長の頬を打ちました、茲に於て計なすも五百余名の爭議團員と我々五名との間に大亂闘が始まり爭議團本部は大修羅場と化したやうな次第でありました。

ある新聞紙の如きはこの事件について暴漢が竹槍や混棒の類を携へて乗りこんだとか得物をもつて叩いたとかと書いて居りますが嘘の皮も甚だしいものです、又樂器會社の意を受けて爭議團切崩しの行動をした云々の取沙汰も全然事實無根の風説であります、本會の甚だ迷惑とするところでありました。

我々は寔に豫期せぬこの亂闘によりまして附近町民各位をお騒がせ申し且つ例へ一時たりとも市民諸君に對して不安の念を抱かせたことは衷心からお詫申上げる次第であります、しかし我々も身に降りかゝる火の子は避けねばなりません、又本會の主義精神に反する立花春吉の行動は飽くまでも是正せねばなりません、それが内地人諸君から愛して戴かねばならん我々鮮人の義務であります。

賢明なる濱松市民諸君
どうか我々の意のあるところをお汲み下さいまして行末永く相愛會を、鮮人等を受し下さるやう伏して願申上ます。

主義精神

一、内鮮兩民族の親善融和を圖り人類生活の幸福増進に立脚してその實現に徹底的努力を期す

二、内地在住鮮人の思想善導及生活安定の確立を期す

大正十五年五月二十一日

日鮮融和團體
相愛會東京總本部